



加藤 元の



と暮らして
みませんか

11

トイレのしつけは、犬が来たその日から必要なもので、事前に犬の居場所とベッド、サークルを置く場所を決めておきます。排便、排尿をする場所（トイレ）もサークル内に作っておきます。トイレは市販の使い勝手のよいものか、トイレとしてビニールなどを敷いた上に、新聞紙などを何枚も重ね、その上にペットシートをサークル内に敷きつめてください。排便、排尿が済んでいけばサークルを開いて出入りできるようにします。トイレのしつけのポイントも、子犬や犬の生理的な特徴を上手に利用すること、うまくできたら必ずほめてやることです。

トイレのしつけ⑤

において場所を認識

目が覚めた時、食餌が終わった時、ひと遊びした時などに生理的に排便や排尿をしたくなるものです。しかもこの場合、子犬は排便のために必ず場所を探すような仕草をします。例えば、においをかいだり、うろろしたり、ぐるぐる回ったりしてから、あたかも場所が分かったような顔をしてトイレをします。サークルから出ている時にトイレをしそうになったら、必ず先手を打ってトイレに連れて行きますが、慌てたり、大声を出してはいけません。失敗した時の対応はさらに大切で、大声で叱ったりしてはいけません。しつけと教育は、いつでもうまくできたら、すかさずほめてごほうびをあげることが肝心です。

犬は気持ちのいい場所で排便、排尿をするものなのです。快適な場所、しかも必ずにおいに誘われるものです。においに対する敏感さは、人間には想像もつかないものです。

シートは一回で取り換える必要はありません。足を汚したりする心配がなければ、必ずにおいが残るようにしてやり、何回か使うようにします。そうして、そこにする度にほめてやればよいのです。犬はにおいてそこがトイレと認識し、そこですればよいのだと分かるようになるのです。

（ダクタリ動物病院広尾病院院長、日本ヒューマン・アニマル・ボンド・ソサエティ会長）

《産経新聞2004年6月13日掲載》